

令和5年度
森林・山村多面的機能発揮対策交付金
活動事例集



林野庁

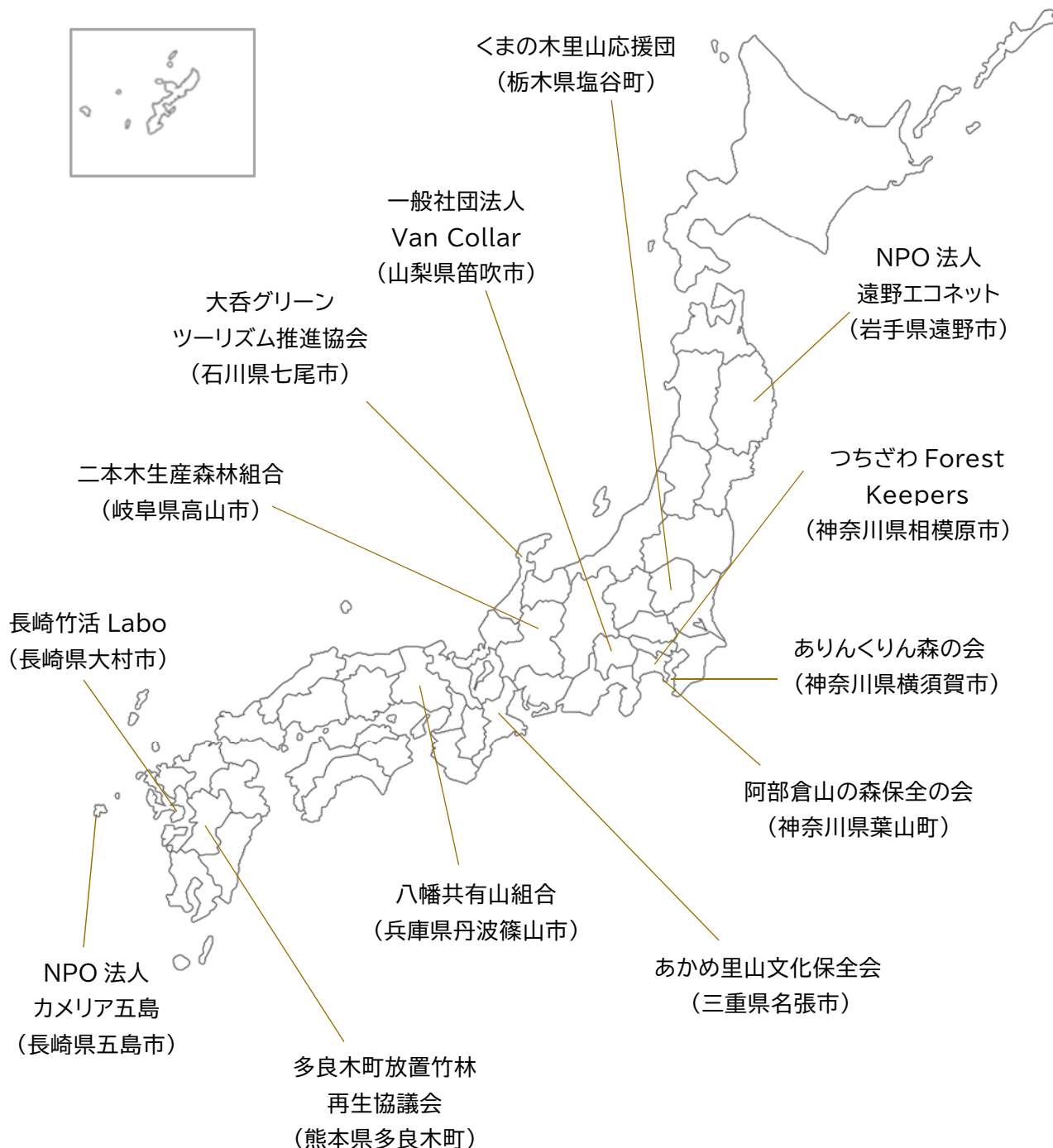
目次

掲載団体一覧	2
掲載団体活動所在地	3
活動事例	4
1 『子どもたちと守り育てる市民の大切な水源林』 NPO 法人 遠野エコネット（岩手県遠野市）	4
2 『放置林での里山整備と森林資源の域内循環』 くまの木里山応援団（栃木県塩谷町）	6
3 『マウンテンバイクコースの整備を通じた里山の回復』 つちざわ Forest Keepers（神奈川県相模原市）	8
4 『荒れ果てた森が有償会員制の体験の森に』 ありんくりん森の会（神奈川県横須賀市）	10
5 『活動交付金と自主事業により得られた相乗効果』 阿部倉山の森保全の会（神奈川県葉山町）	12
6 『スギ林皆伐地を地域の原風景、広葉樹の森に再生』 大呑グリーンツーリズム推進協会（石川県七尾市）	14
7 『伝統家屋と里山との一体整備で得られた魅力的な「森際生活」』 一般社団法人 Van Collar（山梨県笛吹市）	16
8 『広葉樹林の天然更新と森林の多面的機能の維持』 二本木生産森林組合（岐阜県高山市）	18
9 『大切な地域資源「里山の風景」の再生』 あかめ里山文化保全会（三重県名張市）	20
10 『里山の維持管理で年間 1,000 人超利用のハイキングコースに』 八幡共有山組合（兵庫県丹波篠山市）	22
11 『出張イベントで都市住民に森林の情報を発信』 長崎竹活 Labo（長崎県大村市）	24
12 『島の恵みツバキで離島の問題を解決』 NPO 法人 カメリア五島（長崎県五島市）	26
13 『放置竹林問題を解決し、地域資源の循環を促進』 多良木町放置竹林再生協議会（熊本県多良木町）	28

掲載団体一覧

No.	活動組織名(活動地域)	活動タイプ				活動の工夫点				
		里山林	竹林	森林資源	関係人口	自治体・企業連携	情報発信	林産物の商品化	関係人口交流人口	生物多様性の保全
1	NPO 法人 遠野エコネット (岩手県遠野市)	●		●	●	●	●		●	
2	くまの木里山応援団 (栃木県塩谷町)	●	●			●	●			
3	つちざわ Forest Keepers (神奈川県相模原市)	●				●	●		●	
4	ありんくりん森の会 (神奈川県横須賀市)	●	●			●			●	
5	阿部倉山の森保全の会 (神奈川県葉山町)	●				●	●		●	
6	大呑グリーンツーリズム推進協会 (石川県七尾市)	●				●			●	●
7	一般社団法人 Van Collar (山梨県笛吹市)	●	●	●			●		●	
8	二本木生産森林組合 (岐阜県高山市)		●		●	●			●	●
9	あかめ里山文化保全会 (三重県名張市)	●	●			●	●	●	●	
10	八幡共有山組合 (兵庫県丹波篠山市)	●				●	●		●	
11	長崎竹活 Labo (長崎県大村市)		●				●		●	
12	NPO 法人 カメリア五島 (長崎県五島市)	●	●	●		●	●	●	●	
13	多良木町放置竹林再生協議会 (熊本県多良木町)		●			●	●	●		

掲載団体活動所在地



活動事例

子どもたちと守り育てる市民の大切な水源林

NPO 法人 ^{とおの} 遠野エコネット

設立年:平成 16 年(平成 22 年法人化)

構成員:135 名(正会員 60 名)

活動地域:岩手県遠野市

活動実績(令和 4 年度):里山林保全(3.6ha)

資源利用(17.4ha)、交付金 2,683 千円

連絡先:0198-64-2250 Email:pahaya@tonotv.com



活動の概要

岩手県南東部の内陸に位置する遠野市は、遠野盆地を取り囲むように水源林が広がっています。遠野エコネットは、その一部である土淵町(つちぶちちょう)の国有林 1.3ha と松崎町(まつざきちょう)の私有林 15ha を対象に本交付金の活動を展開しています。

土淵町にある「琴畑水源遊々の森」では、国有林での森林整備や保全活動等、国民参加の森林づくりを推進する仕組みの下で、遠野市と遠野エコネットが協定を結び、琴畑高原(ことはたこうげん)の森を再生する「水源の森プロジェクト」を行っています。

水源の森プロジェクト

琴畑高原を森に再生することを目指した水源の森プロジェクトは、平成 16 年に始まり、今年で 20 年目になります。毎年、市内の小学生(約 15 名)が訪れ、自分たちが拾ったドングリで育てたミズナラなどの苗木の植栽や植栽苗木の保育作業などを実施しています。本交付金にかかる活動は、岩手南部森林管理署遠野支署の協力を得て行っています。

薪の駅プロジェクト

遠野市内の山林の現場の様子やアンケート調査の結果から、間伐等の手入れが遅れている山林が多く存在することが明らかになりました。そこで、平成 22 年より、間伐材を薪として市民に配る「薪の駅プロジェクト」を始動し、森林整備や薪づくり、自然体験型教育等の活動を通じて、多くの人に身近な山林の現状を知ってもらうことで、森林整備の重要性を伝えていきます。

松崎町では、長年の間十分な管理が行われてこなかったスギ林、マツ林、雑木林で里山環境の回復などを行っています。また、市内の山林に放置されている間伐材を有効利用する「薪の駅プロジェクト」の一環で、山仕事入門講座、薪づくり・木工教室等を開催するほか、自然体験型教育の活動を通じて地域の活性化に取り組んでいます。



琴畑高原での小学生との植樹活動



薪の駅に集められた配布用の薪

活動の成果及び効果(アウトプットとアウトカム)

➤ 森林整備の新たな担い手育成への貢献

遠野エコネットでは、山仕事の入門講座(月1回の連続講座)を開催し、チェーンソーの使用講習のほか、間伐やかかり木処理実習など、実践的なプログラムを提供しています。講座には毎年約20人が参加し、森林整備の新たな担い手として巣立っています。

➤ 「倶楽部」での活動を通じて高齢者に薪を無償提供

遠野エコネットは、山仕事の入門講座修了生の間伐、造材、集材の実践の場である「間伐倶楽部」のほか、間伐材の資源利用として、薪割り等を行う「薪づくり倶楽部」、木工体験の「森業倶楽部」、炭焼きを体験する「炭っこ倶楽部」のほか、森林観察等の体験を行う「森楽倶楽部」を運営しています。

本交付金の活動もそうした「倶楽部」の実践の場の提供につながっています。間伐材で生産した年間40~50トンの薪の一部は「森の傘地蔵プロジェクト」として、薪の入手が困難な市内の高齢者宅に無償提供し、喜ばれています。



写真上から、作業前の林内、集材後、薪づくり作業

活動上の課題、その対応策等

- 林業事業体・森林組合などが施業していないところが対象となります。その結果、条件が悪い(採算性がとれない)ところが多く、苦労しています。

今後の展開

- 森林所有者や市民に呼びかけ、森林ボランティアの養成を継続し、併せて、森林整備も継続します。
- 薪等の木質バイオマス、木工品、木炭等の利用をさらに拡充することで、未利用の木材資源の有効活用を図ります。
- 「琴畑水源遊々の森」での森林学習、体験会を継続的に行います。



本交付金を利用してよかった！

本交付金による活動を通じて、森林管理に関する作業の知識や技能を習得した人が、別の場所で森林管理活動を始めるなど、活動の横展開ができました。

他の活動組織への一言アドバイス

山や森に関わることに目を向けてもらうことが大切です。間伐などの作業体験への呼びかけだけでなく、薪づくりや炭づくり、木工・ツル細工など、関連する多様なイベントを用意して、若者や女性の参加を募っています。

放置林での里山整備と森林資源の域内循環

き さとやまおうえんだん
くまの木里山応援団

設立年：平成 20 年

構成員：20 名

活動地域：栃木県塩谷町

活動実績（令和 4 年度）：里山林保全（17.3ha）
竹林整備（0.5ha）、交付金 2,138 千円

連絡先：070-5468-1114

Email:inkyodoctor@yacht.ocn.ne.jp



活動の概要

栃木県塩谷町（しおやまち）は6割を山林が占め、過疎化が進行しています。活動地は地域住民から「田所山」（たどころやま）と呼ばれていた場所で、昭和 62 年にゴルフコース（ロペ倶楽部）の拡張申請が行われたものの受理されず、森林経営計画にも入らず放置林となっていました。アズマネザサ、クズ、フジ等が絡みあい暗い森林となっていたため、鳥獣害や不法投棄、山火事のリスクもありました。

➤ 町・企業との「地域共働事業に関する包括連携協定」の締結

森林整備の実績が積み上がってきたことから、令和3年4月に、塩谷町と森林所有者（ロペ倶楽部）、くまの木里山応援団の3者による「地域共働事業に関する包括連携協定書」を締結し、強固な連携関係を築きました。

➤ 内発的発展・域内循環型の社会の構築

活動の中核として「内発的発展」を意識し、地元企業の SDGs 活動への支援等のほか、域内循環を念頭に森林整備で出る森林資源の域内での活用に取り組んでいます。周辺住民への「薪利用アンケート」での薪のニーズを踏まえ、ボランティアにて薪割りをを行い、希望者に有償配布しています。

こうした中、塩谷町の町長から、この田所地区の放置林を対象に里山林整備の提案があり、所有者であるロペ倶楽部の許可を得て、令和元年度から本交付金を活用し、里山の管理と里山にある資源の域内循環に取り組んでいます。最初の3年間で、里山林 9.7ha を対象に刈払いや枯損木処理などの管理を実施し、令和4年度からは、新たに 8.1ha を対象に美しい里山景観を回復するための活動を実施しています。



左から、応援団団長、塩谷町町長、ロペ倶楽部支配人



周辺住民等の希望者に配布する薪を集積している薪ステーション

活動の成果及び効果(アウトプットとアウトカム)

▶ 本交付金事業の効果を公表する機会の提供

塩谷町とロベ倶楽部と地域共働事業に関する包括連携協定書を締結することにより、町や関係主体との連携による多角的な里山林管理の活動に発展しています。また、「将来こうなってほしい里山のくらしと自然」を追求することを目的とした公開型のイベント「たかはら里山の集い」を令和3年より毎年実施することで、本交付金事業による効果を広く公表する場としています。

▶ 周辺住民のコミュニケーションも後押し

数十年管理されていない里山林を整備することで、イノシシ等の鳥獣被害が軽減し、ゴミの不法投棄がなくなり、山火事予防につながっています。また、散歩中の周辺住民があいさつをしあうようになったなど、様々な効果が得られています。



奥側はササが繁茂する放置林、手前側が里山管理作業後(上)ササやフジの処理を行い、明るくなった林(右上)

活動上の課題、その対応策等

- やぶと多くの倒木がある環境下で、活動地の境界の確認に1年以上かかりました。
- 本交付金事業の実施から森林経営計画作成には5年間空けるよう指導があります。森林経営計画は30ha以上の森林を対象に立てられるので、例えば、30ha以上の本交付金実施者には、3年間の下刈り後、5条森林であれば森林経営計画に移行するという考えが可能であるとよいと思います。

今後の展開

- 連携協定に矢板市も加入(令和5年11月18日)しました。今後は、矢板市も含めた里山林整備活動や木製品(小物)のPR等を連携団体と実施予定です。
- ロベ倶楽部の里山林材の小規模木質バイオマス発電の導入と、落葉の堆肥化や薪の有償配布等、森林資源の活用による収益事業の拡大を検討します。
- 地域の森林や自然の特性を活かした、森づくりのさらなる促進と域内循環型の仕組みを検討します。

本交付金を利用してよかった！

本交付金を活用した活動を行うことで、塩谷町、矢板市などの自治体や地元企業との連携強化が進み、連携協定に基づく確固とした協力関係を築くことができました。また、団員一人一人の技術力や忍耐力、チームワーク力が向上し、くまの木里山応援団の活動も活発化しています。

他の活動組織への一言アドバイス

- ▶ 作業が継続できない方の対応に苦慮したが、これを克服するため、負担なく継続的に参加できるようにチーム単位での柔軟な活動を展開しました。
- ▶ 他団体とのかけ持ちに対しても理解を示し、縛りが強くなりすぎないように留意しました。活動を義務化せず、自己実現ができる環境づくりなどについても配慮しました。

マウンテンバイクコースの整備を通じた里山の回復

フォレスト キーパーズ
つちざわForest Keepers

設立年:令和4年

構成員:22名

活動地域:神奈川県相模原市

活動実績(令和4年度):里山林保全(2.2ha)、交付金427千円

連絡先:080-5430-5576

Email:watanabe@heritagekeeper.co.jp



活動の概要

首都圏に近い相模原市に位置する土沢地区(つちざわちく)の里山林は、かつては畑や果樹園、スギ・ヒノキの植林地、雑木林などが点在し、近隣の雨乞山の山頂では、50年ほど前まで雨乞の儀式が行われるなど、土沢地区の人々にとって欠かせない役割を担っていました。

高度成長期には、この地区にも都市化の波が押し寄せ、里山の暮らしは失われていきました。こうした折、土沢の森一帯を対象に研究開発型の企業を集積する都市構想や鉄道の延伸計画が持

ち上がったことから、地権者が土地を手放し始めました。しかし、これらの整備事業は一向に具体化せず、計画の実行可能性が低下すると、土地所有者が入れ替わるようになりました。

そこで、つちざわ Forest Keepers が、本交付金を活用し、バブル経済崩壊後に放置され荒れ果てた森林をかつての里山の姿や機能の回復を目指して、令和4年度から2.2haを事業対象に森林管理と散策路・マウンテンバイクコースの整備などを行っています。

▶ 多様な主体をターゲットとした場づくり

マウンテンバイクの愛好者や、地域の子どもの保護者たちが、森あそびの場として活用しながら森林を整備しています。マウンテンバイクは、大人用だけでなく子ども用のレンタル(1,500円/日、ヘルメット込)も可能です。



▶ 他の活動団体との連携

隣接地で活動している森林整備の経験や技術が豊富な活動団体(自遊クラブ)から技術指導・サポートを受けて、適正な森林管理やメンバーの森林整備に係る技能向上に努めています。



活動の成果及び効果(アウトプットとアウトカム)

➤ より多くの利用者が安全かつ快適に

本交付金活動での森林整備により、多くの利用者の安全かつ快適な森林利用につながっています。マウンテンバイクのコースや森のあそび場空間などの利用者は過去10年で延べ3,000人以上となり、近年においても年間300人以上の利用者で推移しています。

➤ 子どもの遊び場としての森林整備・活用

森での子どもの遊び場空間として、小学校や幼児施設、育児や肢体不自由児のサークル、就労支援施設等、多くの主体による森での体験に利用されています。年間の利用団体数は10団体以上に上ります。

➤ マウンテンバイクチームの森林整備・活用

つちざわ Forest Keepers の構成メンバーの多くが参加するマウンテンバイクチームは、チェーンソーを用いて針葉樹林の間伐・除伐を行い、マウンテンバイクのコースを自主的に整備。自らが整備した森林内でマウンテンバイクを楽しむことで森林管理の意義を実感しています。

➤ 地元行政からのイベント企画の依頼

本交付金による活動を含め、本会の活動実績が認められ、地元行政(相模原市)から、森あそびや森林整備体験などのイベント企画の依頼があるなど、活動組織としての役割が向上しています。



森あそびの場として整備された場所の一部

活動上の課題、その対応策等

- 森林整備を継続するには、常駐できる人材雇用のための安定財源の確保が不可欠です。負担費用が膨らまないよう、安定収入が得られるモデル構築に留意しています。
- 森林整備には一定程度経験をもつ適正人材を確保・育成する必要があります。専用HPを通じた活動の周知や、経験豊富な他団体からの支援により人材確保・育成に対応しています。

今後の展開

- 森林での体験活動は、現在大人も子どもも参加対象としていますが、これまでは、子どもが主要対象となっていました。今後は、大人向けの森林浴プログラムや企業向けワーケーションプログラムなどを検討し、そのための森林整備も進めていきます。

他の活動組織への一言アドバイス

- 整備をしている森林の近隣(地元)住民と、いかに良好な関係を築いていけるかが大切です。
- 地元在住の構成メンバーが中心となって、地域の事情の理解や関係性の構築等に務めることで、地元を受け入れられる素地が確立できます。

本交付金を利用してよかった！

本交付金活動を通じて、構成メンバーが森林整備における安全管理の重要性を認識し、活動時の安全に対する意識が高まり、安全対策に関する知識・技能を得ることができました。また、本交付金活動の実績が認められ、地元行政からイベント企画の依頼が来るようになりました。

荒れ果てた森が有償会員制の体験の森に

ありんくりん^{もり かい}森の会

設立年：令和2年

構成員：12名

活動地域：神奈川県横須賀市

活動実績（令和4年度）：里山林保全（0.5ha）

竹林整備（0.4ha）、交付金 151千円

連絡先：090-1115-9605



活動の概要

横須賀市衣笠（きぬがさ）にある活動地は、平安・鎌倉時代に三浦半島で勢力を誇った「三浦一族」の衣笠城跡を囲む里山林です。長年手入れされてこなかった林内は、鬱蒼としており、風倒木や枯損木等の危険木が点在し、安全でない状況にありました。一部の広葉樹は大径化し、ナラ枯れの被害を受けた樹木もありました。また、モウソウチクが侵入し、草本の生育を阻害している場所もありました。



こうしたことから、地元の仲間が集まり、里山林の保全・再生・活用を通じて地域の環境・景観保全に貢献しようと、平成30年から森林整備を始めました。一定の整備が進んだ令和2年に、会員制で森林整備や森林浴など、里山体験を楽しめる場所「ありんくりんの森」を開設しました。本交付金の対象森林の整備も、これらの会員やイベント参加者などを通じて行われています。

➤ 農地・山林の一体的整備・活用

森林整備の一環で切り出した木を利用した家具や木工品・読書小屋作り、薪わりやピザ作り、農地での有機野菜・果物の栽培、棚田の復元と米作りなど、農地・山林の一体的整備・活用で自然と調和した里山体験の場を提供しています。

➤ 山林の有償貸出

山林の一部を有償（山会員 6,000円/月、畑会員 6,000～10,000円/月）にて貸し出しています。森林利用者は、過剰伐採は行わないなど一定のルールの下に自由に山を利用することができます。ほか、古民家での宿泊やキャンプなど、いろいろな楽しみ方も提案しています。



活動の成果及び効果（アウトプットとアウトカム）

➤ 安心して利用できる森林が増えた

小規模ながら山を維持しつつ収益を得る方法を模索してきました。これまでに蓄積した知見・経験からひとつの形ができました。会員・非会員とも、利用にあたり、500～1,000円程度の利用料金をいただき、利用者には、指導やプログラムの提供などを行っています。

➤ 学校や企業等、多様な主体の受入

市内の小学校の遠足や企業研修の場などの団体利用が増え、年間3,000人程度が訪れるようになりました。

活動上の課題、その対応策等

- 本活動に一定の成果が出ている一方、活動を続けていくためのモチベーションの維持が課題です。何をすると「自分たち自身も楽しめる」のか、それを模索することが大切です。
- 活動を進めていくには、ある程度の支出があるため、安定した収益の確保が課題です。施設と山林利用以外の方策を検討し、活動継続と新たな展開の資金確保に努めています。

今後の展開

- 会員サービスとしての里山体験を超えた活動を展開していきます。不登校の中高生の居場所づくりや合宿事業として、畑や家畜の世話、共同生活を通じて自己承認、課題解決、対話などを自ら学ぶプログラムを実施します。
- 世界が急速に変化し、価値観が多様化する中で、特に、若い人たちが「自分らしく生きる」を見つけられる場の提供等について、さらに探求していきます。



子どもたちが自由な発想で作った枝の車座スペース(右)と大人が作った斜面でも昼寝が楽しめるリラックス縁台(下)



他の活動組織への一言アドバイス等

- 若い世代に時間や頻度のコミットを求めるのは難しいと感じています。それぞれが自分の役割を考え提示するような運営方法が彼らにとって心地良いようです。目標を共有してそれぞれがそれに向かって何ができるかを話し合い、関わり方をそれぞれ提示してもらう方法が、私たちの活動での工夫です。
- 森林整備の参加者を募る際に、参加者の属性を意識して声かけを行っています。例えば、ファミリー層には子どもが遊ぶ森づくり、若者層には彼らが作りたい空間づくりを提供しています。

本交付金を利用してよかった！

本交付金の活用による活動を通じて、森林整備が加速し、またこれらの活動が人集めにも大いに役立った。結果として、多くの人に安心して入ってもらえる森林を増やすことができました。また、森林整備活動で出た木を材料として、小屋や家具づくり、薪などとして活用できたのは一挙両得だったと言えます。

活動交付金と自主事業により得られた相乗効果

あべくらやま もりほぜん かい
阿部倉山の森保全の会

設立年:平成27年

構成員:20名

活動地域:神奈川県葉山町

活動実績(令和3年度):里山林保全(3.1ha)、交付金 341千円

Email:ziru@arai-n.com



活動の概要

阿部倉山は、神奈川県葉山町北部に位置する標高 161mの山で、二子山山系の一部を成しています。一部は神奈川県の土砂流出防備保安林と保健保安林に指定されており、頂上付近ではヤマザクラが多く見られます。活動地はスギの人工林と広葉樹林で、所有者の高齢化で維持管理が手薄になり、ササや倒木に覆われ、暗く景観の悪い森林になっていましたが、平成20年に地元の森林組合が解散したことによって、状況が益々深

刻化することが懸念されました。

そこで、阿部倉山の森保全の会が、本交付金を活用して、令和3年度までの6年間に、2期4エリア約3haでササや灌木の刈払い、倒木処理、除間伐、植樹などの森林整備を行ってきました。また、本交付金の活動と並行して、自主事業で相模湾や富士山が展望できる休憩場所等を設置したことで、地域内外からのハイカー等が増え、森林整備との相乗効果を生んでいます。



➤ ハイカー利用のための森林整備

長年手入れがされず、ササ、灌木、倒木、枯損木等に覆われていたスギ林と雑木林で、地域住民やハイカーなどが安心して歩ける散策路の整備や明るく景観がよい森林の再生に取り組んでいます。

➤ 町長を招いての植樹会

町長と地域の関係者を本交付金の活動地に招いて行う植樹会が、これまで2回開催されています。マスコミなどを通じて広報に取り組むことにより、地域住民が活動に理解を示すようになりました。



活動の成果及び効果(アウトプットとアウトカム)

➤ 暗い荒廃した森が明るく安全な森に

本交付金の活動でアズマネザサや灌木の刈払い、枯損木・倒木処理、除間伐等を行った結果、明るく安全な森がよみがえりました。スギ人工林の林床には光が差し込み林床の植生が豊かになりました。令和元年の台風の影響で発生した多数の被害木を処理することもでき、林内を横断する散策路は、地域内外から多くの人々が訪れ(年間利用者数 1,000 人以上)、地域活性化につながっています。

➤ 四季折々の自然を楽しめる山に

雑木林の疎開部分などに植栽したヤマザクラ、アジサイ、モミジなどが順調に生育し、四季折々の山の自然を楽しめるようになってきました。また、毎年春の植樹会の広報を、地域情報誌など、マスコミを通じて行うことで、本会の活動に対する地域住民の理解が深まっています。



子どもを含む、約 70 名での植樹イベント。報道機関 2 社も駆けつけ、ヤマザクラ等約 100 本が植えられました。

活動上の課題、その対応策等

- この地域の山・畑には多数のイノシシが出没し、活動地の森林内でも散策路や周辺を掘り返すなどの被害が頻繁に確認されています。ハイカーが安全に利用できるよう、必要に応じて散策路の整備や明るい森林景観の維持管理などの対策を継続していきます。
- 活動資金の確保が課題となっていますが、交付金活動終了後の整備済みの森林での保全活動は、会員からの年会費で継続していく予定です。

本交付金を利用してよかった！

本交付金がきっかけで、長年、気になっていた森林整備に着手することができました。林内を横断する散策路は、かつてはササや枯損木等に覆われ、訪れる人も少なかったが、活動の結果、地域内外から訪問者が増え、地域の活性化にも寄与することができました。

他の活動組織への一言アドバイス

- 本交付金活動での森林整備と並行して、散策路、休憩場所、ベンチや案内標識の設置などの関連整備を自主的に進めることで、ハイカーなどの利用者が増えるといった相乗効果が得られます。
- 自主的な関連整備に係る資金は自主財源になりますが、交付金活動の進捗などを見つつ、柔軟に対応できるメリットもあります。

今後の展開

- これまで整備したエリア以外にも、長年にわたり放置され、枯損木やかかり木が多く見られるスギ林があり、アオキやマダケ等が繁茂していることから、新たな活動対象地として整備します。



森林管理で一望できるようになった富士山と相模湾

スギ林皆伐地を地域の原風景、広葉樹の森に再生

おおのみ すいしんきょうかい
大呑グリーンツーリズム推進協会

設立年：令和 5 年

構成員：15 名

活動地域：石川県七尾市

活動実績（令和4年度）：里山林保全（3.5ha）

竹林整備（0.3ha）、交付金 509 千円

連絡先：090-5683-6916 Email:minamipp@nanaonet.jp



活動の概要

石川県七尾市南大呑地区山崎町（ななおしみなみおおのみちくやまざきまち）の山林は、富山湾に面し、3,000m 級の立山連邦を望む農村地帯に位置しています。地域では、侵入竹の拡大、雑木林の老齢化・管理放棄などによる荒廃に加え、材価低迷による林業経営の採算性悪化という問題を抱えていました。

そこで、平成 25 年、里地・里山の原風景を将来世代に残すとともに、四季折々の美しい景観で地域の魅力を向上することを目指し、スギ林の皆伐と広葉樹への樹種転換の取組を開始し 5 年間で広葉樹の苗木約 1,500 本を植栽しました。

しかし、植栽後 6～10 年経過した現在でも、苗木の成長が十分でないことから、本交付金を活用して保育作業を行うことにしました。また、里地・里山の再生を通じた地域活性化の一環として、地域外関係者対象の伐木等の森林管理やしいたけ



植菌などの多様な体験プログラムも実施しています。



➤ スギ林皆伐地を対象とした広葉樹への樹種転換

平成 25 年から 29 年の 5 年間に、スギ皆伐地に、クヌギ、ナラ、サクラ、イチヨウ、モミジ、ハナミズキ等広葉樹の苗木約 1,500 本を地元の森林保全ボランティアの支援を得て植栽しました。苗木は、県の森林組合連合会を通じて県内産のものを中心に調達しました。苗木の平均樹高が1～3m程度と成長が十分でないことから、本交付金を活用し令和5年度は保育作業を行っています。

➤ 地域住民・森林保全ボランティア・大学生との連携

里山再生のための森林整備や、里山再生の理解を促す啓発活動などを地域住民と森林保全ボランティア、大学生などと連携して行っています。令和 5 年秋には、金沢星稜大学の学生を対象とした森林管理体験プログラムを実施しました。



活動の成果及び効果(アウトプットとアウトカム)

➤ 広葉樹植栽木の成長

食害の懸念が予想されたため、植栽時に各苗木にハイトシェルターを設置しました。その結果、多くの苗木が食害を受けることなく成長していることが確認できました。

➤ 若い世代への波及効果

本交付金の活動を通じた植栽木の保育作業によって、山の仕事に興味を持つ地域内外の 30～40 代の若い世代が増えています。活動前の 1.5 倍程度の増加が期待されています。

➤ 里山景観によるインバウンド効果への期待

特に海外の利用客にとって日本の文化を象徴する美しい里山の風景はアピールポイントとなります。本交付金を活用した森林整備を通じて里山

の景観が保全・維持されることにより、県内外や海外からの交流人口が、交付金活動 1 年目でも 300 人となるなど、徐々に増加しています。

活動上の課題、その対応策等

- 植栽木周辺に繁茂するツル植物や外来植物が苗木の成長の阻害要因となっている懸念があり、苗木に絡み付いたクズ等を取り除くとともに、セイタカアワダチソウの侵入の抑制にも取り組んでいます。
- 下刈り作業時に苗木の誤伐等の問題が発生しています。苗木にテープや杭等目印を付けることによって、植栽木の視認性を高め、下刈り作業の時間短縮と誤伐防止に努めています。



左から、クズが絡みついたモミジと取り除いた後、下刈り前と下刈り後

下刈り作業を行った展望広場への道筋(右)

今後の展開

- 交付金活動として植栽苗木の保育に取り組み、当該地の一番高い場所に展望広場を整備し、植栽木を含む里山風景を一望できるようにすることで、地域のアピールポイントとしていきます。
- この地域の里山の美しい風景を堪能する目的で地域内外から多くの人に訪れてもらい、里地里山の原風景再生による地域活性化のモデルとなるよう、森林整備の継続と多様な体験プログラムの充実を図ります。

他の活動組織への一言アドバイス

- 専門家ではないので、適切な樹種転換の方法など生物学的な対応策は手探りの部分がありますが、本活動を通して、体験から知見を積み上げていくことも大切な要素です。
- 現状、山仕事を生業にする人を育てるのは難しいです。まずは、地域の人々などに山に目を向けてもらうために、本交付金を活用することは大変有意義です。



本交付金を利用してよかった！

本交付金の里山での活動を通じて、地域内外の 30～40 代の比較的若い世代の住民の中に、山の仕事に興味をもってくれる人が出てきました。

伝統家屋と里山との一体整備で得られた魅力的な「森際生活」

一般社団法人 ヴァン カラー VAN COLLAR

設立年:平成 30 年

構成員:4名

活動地域:山梨県笛吹市

活動実績(令和4年度):里山林保全(0.1ha)

竹林整備(0.1ha)、資源利用(0.3ha)、交付金 159 千円

連絡先 080-3939-9293

Email:info@vancollar.com



活動の概要

山梨県笛吹市境川町大窪(ふえふきしさかいがわちょうおおくぼ)上・中集落は、伝統的な家屋が多く残る地域です。しかし、高齢化と人口流出の波により、集落内 29 軒中 12 軒が空き家、11 軒が高齢者世帯となっています。集落を囲む私有林の多くは、自主的な維持が困難な状況で、管理が放棄されていました。他方、集落が近接しているこうした森林を一体的に整備することは、取組次第で美しい景観と魅力的な暮らしが手に入る可能性を秘めていました。

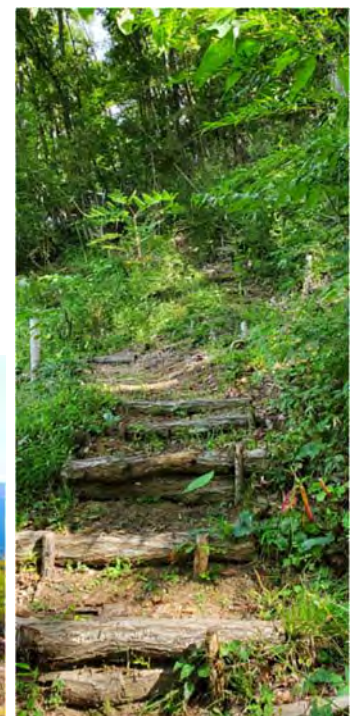
こうしたことから、有志の地域住民が集結し、里山保全と森を取り入れた豊かな暮らしの再構築に挑戦することにしました。まず、長年空き家になっていた家屋を修繕し、生活と活動の拠点をつくりました。日本の自然文化資産でもある里山の整備を進めつつ、「森際生活」の実践と地域外の人々への大窪地区の魅力の発信、賛同する移住者誘致につながる新しい生活モデル空間を創出する取組を進めています。

➤ 現代的な森の「コモンズ」化

森を共有資源として永続的に管理し、共に森に学び、その恵みを得る、現代的な森の「コモンズ」化を目指しています。「森のある豊かな暮らし — 森際生活」を目指す新しいコミュニティをつくり、都市農村交流を通じて移住候補者にアピールするとともに、そのノウハウを社会に還元しています。

➤ 滞在型教育プログラムと国際交流の推進

滞在型教育プログラムとして、台湾政府支援の下、台湾の大学生を対象に、森での実習と木工製作等を実施(6名のグループが2回。各回 1 か月間ずつ滞在)しました。また、海外の芸術家向けに、長期滞在型創作プログラムや、関東圏の社会人を対象に独自に創設した都市森際交流「森際クラブ」に取り組んでいます。



活動の成果及び効果(アウトプットとアウトカム)

➤ 里地里山整備で豊かな暮らしの再構築

竹などが繁茂して入れなかった拠点施設の裏山(約1ha)を来訪者が安心して利用できるよう整備できました。国内多くの地域で集落が衰退する中、本交付金の活動で、里地里山を整備しながら、森を取り入れた豊かな暮らしを再構築する「森際生活」の意義が発信できました。

➤ 「森際生活」のノウハウを社会に還元

ホームステイと森での体験活動の拠点を設け、参加者に集落での暮らしの様々な側面を体感してもらい、「森際生活」のノウハウを社会に還元することで、里山を守り育てる活動に対する地域内外の人々の共感を得ることができました。

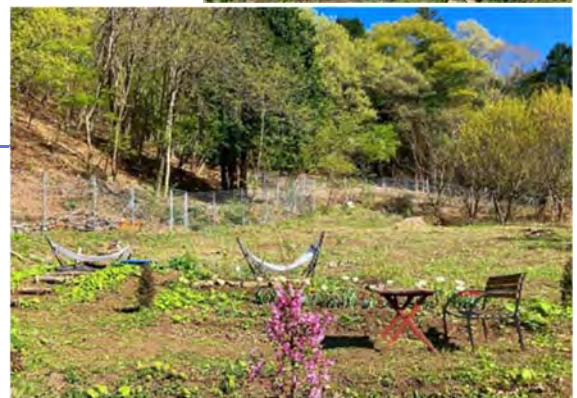
活動上の課題、その対応策等

- 地区の維持のための居住者の増加が課題です。移住者に選んでもらえるよう森という資源を暮らしに上手に取り入れた生活モデルとその運用方法を構築し、魅力的に発信します。
- 集落を取り巻く里山林は竹に覆われ見通しも悪く、イノシシやシカの格好の隠れ場所となります。獣害対策と森の管理を通じて里山の原風景を取り戻し、人と動物の適切な距離を確保します。

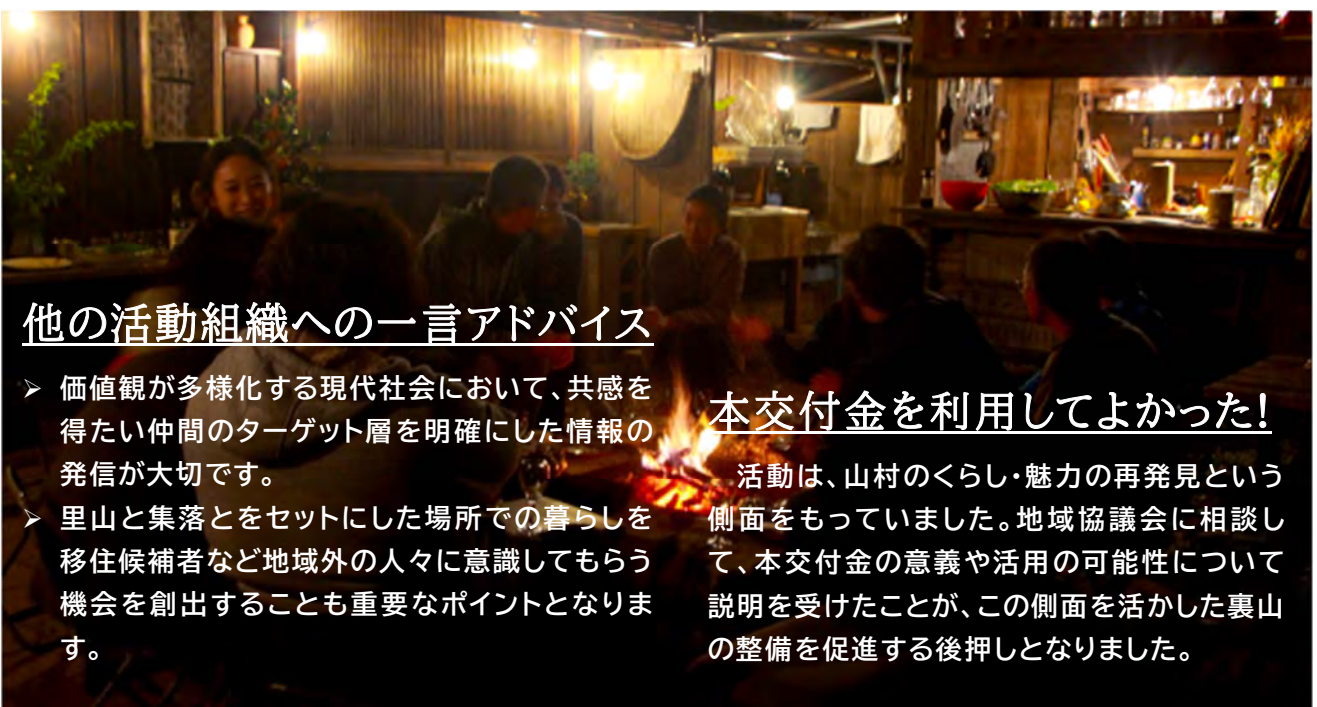


今後の展開

- 本交付金活動の3年間で蓄積したコモンズ(共有資源)としての森の管理運営方法を実際に適用するため、新たな森において活動を拡張していきます。
- 子育て世帯を中心に、森に近い生活に興味のある人々に対する体験の場の提供をさらに進めていきます。



ササ刈りなどの森林整備で魅力的な里山環境に



他の活動組織への一言アドバイス

- 価値観が多様化する現代社会において、共感を得たい相手のターゲット層を明確にした情報の発信が大切です。
- 里山と集落とをセットにした場所での暮らしを移住候補者など地域外の人々に意識してもらう機会を創出することも重要なポイントとなります。

本交付金を利用してよかった!

活動は、山村の暮らし・魅力の再発見という側面をもっていました。地域協議会に相談して、本交付金の意義や活用の可能性について説明を受けたことが、この側面を活かした裏山の整備を促進する後押しとなりました。

広葉樹林の天然更新と森林の多面的機能の維持

にほんぎせいさんしんりんくみあい
二本木生産森林組合

設立年:昭和 47 年

構成員:27 名

活動地域:岐阜県高山市

活動実績(令和4年度):竹林整備(6.0ha)、交付金 1,873 千円

連絡先:090-8864-6581

Email:info@hikodai.net



活動の概要

飛騨地域は落葉広葉樹を主体とする天然林が広く分布し、生産される広葉樹材は家具・木工や建築資材として地域産業を支えてきました。しかし、伐採が進むことで、良質な資源の供給量が急速に減少しています。清見町二本木地区(きよみちょうにほんぎちく)は、標高 1,000m程の小さな谷を小尾根が囲む傾斜地で、水源涵養林として先祖代々守られてきた広葉樹林が広がっています。

二本木生産森林組合は、平成 28 年度から本交付金を活用して、地域の代表的な樹種による広葉樹林約 40ha の天然更新等に取り組んでいます。また、岐阜県農林事務所と連携して、山村交流拠点のラインガルテン「彦谷の里」やキャンプ場、登山道の整備を通じて、都市住民との交流にも貢献しています。こうした取組により、里山景観の保全や森林の多面的機能の維持はもとより、獣害対策や地区の魅力向上にもつながっています。

➤ チシマザサの管理

広葉樹の天然更新を進める中で、特に問題視しているのが伐採後のチシマザサの繁茂です。ササが繁茂すると、広葉樹の更新が進まず、保水力等、森林がもつ多面的な機能の低下が懸念されるためです。このことから、広葉樹伐採後の更新が効率的・効果的に行われるよう、ササ刈りを行い、林床に光が入り実生苗が育ちやすい環境を整えています。

➤ 有用広葉樹モデル整備林の定期観察

現存する二次林を良質な広葉樹林に育成していく技術を実証する目的で、昭和 59 年に、県が地区内に「清見町有用広葉樹モデル整備林(5 ha)」を設置しました。この一環で、県農林事務所と合同で定期観察を継続しています。あわせて、隣接する森を広葉樹母樹林として、実生が発生しやすい環境づくりを行っています。



ササ刈り作業前



作業中



作業後

活動の成果及び効果(アウトプットとアウトカム)

➤ 多様な稚樹の成長

本交付金活動によるチシマザサの刈払いをした場所では、ササの繁茂が抑えられ、林床では、ナラ、ブナ、クリ、ホオノキ、アカメガシワなど多様な樹種の稚樹が多く見られ、チシマザサの高さを超えるまでに成長してきています。

➤ 景観改善に伴う都市住民の誘引効果

力を入れている都市住民との交流の成果として、猪臥山(いぶせやま)登山道に隣接している本交付金活動地での景観の改善によって、登山者が活動前に比べて着実に増えていることが挙げられます。



活動上の課題、その対応策等

- 組合員の離村などで森林管理が難しくなっています。名古屋、岐阜などからの移住者に構成員として地域活動に参加してもらうため、地元町内会への加入を積極的に勧めるなどしています。
- 活動内容やメリットが、一部の地域住民に伝わりにくいことが課題です。それらの人々に取組の意義を積極的に伝え理解してもらうことが必要です。管理作業とイベントの切り分けや、交流イベントを多く設けることも大切です。



ササ刈り後に明るくなった林床に見られる多様な樹種の稚樹

今後の展開

- 地区外の人たちに対して、森林にふれてもらう機会や、森林の価値や持続的な利用について一緒に考え、体験してもらう機会を継続的に設けていきます。
- 森林と農地を一体として、地域課題に取り組んでいくため、集落の農業従事者と連携した活動に向けて関係者と話し合っています。

他の活動組織への一言アドバイス

皆伐後の天然更新はうまくいかないことも多く、林床環境の整備は、天然更新を着実に進めるための重要な要素となります。特にササの繁茂が予想される場合は、主伐前のササの刈り取りが鍵となります。

本交付金を利用してよかった！

「清見町有用広葉樹モデル整備林」が、昭和59年に設置され、このモデル林での取組を参考に、隣接地でのササの管理にこの交付金が利用できたのはとてもありがたかった。

大切な地域資源「里山の風景」の再生

さとやまぶんかほぜんかい
あかめ里山文化保全会

設立年：令和2年

構成員：15名

活動地域：三重県名張市

活動実績（令和4年度）：里山林保全（1.4ha）

竹林整備（0.4ha）、交付金 252千円

連絡先：090-3581-4954 Email:akame.ns@asint.jp



活動の概要

名張市赤目町（なばりしあかめちょう）の里山は、一部「室生赤目青山国定公園」を含む、「赤目一志峡県立自然公園」内にあり、自然が多く残る風光明媚な山間部の盆地に位置しています。里山の風景の中に、戦国時代の天正伊賀の乱の土塁等が残る「柏原城址」の砦跡や6世紀前半頃の古墳などの史跡をはじめとした、歴史や文化価値の高い場所が点在しています。

あかめ里山文化保全会では、この文化や歴史、里山の風景を地元が誇るべき大切な地域資源として、住民が主体となって将来に伝えていくため、本交付金を通じて、里山の保全とその有効活用に取り組んでいます。また、この取組によって、近年深刻化しているシカやイノシシなどによる獣害の抑制につながることも期待しています。

➤ 城址周辺の森林整備

「柏原城址」周辺には、空堀や石落としの土塁跡、石垣を組んだ空井戸といった歴史や文化的価値の高い史跡が残っています。地元の人々が宝と称するこの史跡を後世に引き継ぐため、人の侵入を拒むように繁茂した竹林や雑木林の整備をしています。

➤ 地域内関係組織との連携

名張市観光交流室や名張エコツアーリズム推進協議会と協働で「里山マップ」を作成し、近鉄赤目口駅前の「旅のステーション」(2021年開設の観光案内発信拠点)で配布しています。また、地元の高校等と連携して、赤目四十八滝や近鉄赤目口駅前にて、伐採した竹を利用した竹あかりを飾るイベントを開催しています。



「柏原城址整備中の看板」



旅のステーションの入り口に飾られた竹あかり

活動の成果及び効果(アウトプットとアウトカム)

➤ 交付金活動で歴史的価値が見直される

足を踏み入れることができなかった竹林や雑木林を、交付金活動で除去し整備することで、景観が大幅に改善され、地域住民をはじめ、歴史に関心がある地域外の人々の目が地域内に向くようになりました。



➤ 伐採した竹による散策路の整備

竹林の伐採で大量に発生した竹材をチップperにかけて散策路に敷きつめることにより、散策路の抑草効果が高まり、歩きやすい散策路の整備が促進されました。

往時の姿に近づいた土塁周辺の景観(上)
チップを敷いた柏原城址散策路の入口(下)



活動上の課題、その対応策等

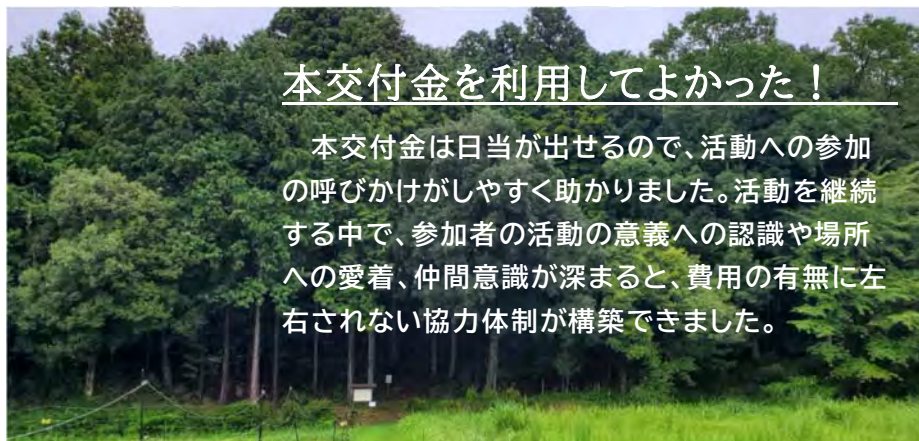
- 高齢化が進む中、里山林の保全活動を継続させるため、若手の活動メンバーの確保に向けて、市と連携した「フォレストレンジャー養成講座(仮称)」や、地区外の女性や学生等に気軽に参加してもらえるプログラムを検討しています。
- 里山を活かした地域づくりの促進が課題となっています。竹細工やメンマ等の食品をはじめ、関係機関と連携した商品開発で、異業種交流を活発化し、コミュニティビジネスへと発展させています。

今後の展開

- 柏原城址東側のすそ野の平坦地は、本交付金を利用して竹やぶ等を伐採整備してきました。ここに説明看板やベンチを置いて城址を見上げる城見公園に整備していきます。
- 森林整備を継続して、赤目地区の文化や史跡の『宝』を地区全体の魅力として地域内外に発信します。
- 竜神山参道周辺を、柏原城址から南東に続く竜神山ハイキングコースとして整備します。
- 土地所有者の協力を得て継続的に里山景観の整備・保全ができる体制を構築します。

他の活動組織への一言アドバイス

- 所有者等の人目にふれるところをきれいにすることは重要です。ただし、身勝手な活動と誤解されないようにやり方には注意が必要です。
- 地区や自治体のまちづくりの中で、活動の意義やビジョンを示すことで、共感が得られ、仲間づくりの一助になります。
- 森林(竹林)の整備等で発生する伐採木の活用について、事前に検討しておくことで取組がスムーズに進められます。



本交付金を利用してよかった！

本交付金は日当が出せるので、活動への参加の呼びかけがしやすく助かりました。活動を継続する中で、参加者の活動の意義への認識や場所への愛着、仲間意識が深まると、費用の有無に左右されない協力体制が構築できました。

里山の維持管理で年間 1,000 人超利用の ハイキングコースに

やはたきょうゆうざんくみあい
八幡共有山組合

設立年:明治期

構成員:49名

活動地域:兵庫県丹波篠山市

活動実績(令和4年度):里山林保全(2.0ha)、交付金 230 千円

連絡先:079-594-1315



活動の概要

八幡共有山組合は、丹波篠山市大沢(たんばしのやましおおさわ)と味間新(あじましん)の2地域に所有する合わせて約80haの人工林・広葉樹林で里山管理をしています。かつては、松茸が多く採れる里山林でしたが、マツクイムシの被害等により、活動の方向性を模索していました。

平成10年に、この林内に「中世ロマンの道遊歩道」(総延長約3km)が、兵庫県緑の公社の協力で整備され、これを機に雑草木の刈払いや倒木の除去等の里山管理に加え、遊歩道の維持管理を開始しました。本交付金の活動では、遊歩道の味間新音羽地区への延長と遊歩道沿いの森林整備を行っています。

▶ 遊歩道の維持管理

「中世ロマンの道遊歩道」は、丹南篠山の佐幾山(さきやま)山頂付近に起点・終点がある尾根沿いの散策路です。戦国時代の山城址などを巡回する起伏に富んだ2コースで、子どもから大人まで楽しむことができます。組合では約25年にわたり里山整備の一環でこの散策路の維持管理を行ってきました。

▶ トレイルランコースとしての提供

令和5年4月に「第1回丹波篠山戦国ロマントレイルラン」が開催され、主催のトレイルラン協会からの利用依頼を受け、遊歩道の一部を提供しました。大会には選手・関係者約200人が参加しました。整備が行き届いた自然豊かなコースは参加者に大好評でした。トレイルラン協会から継続利用の要請があり、今後も協力することとなりました。



活動の成果及び効果(アウトプットとアウトカム)

➤ 登山・ハイキング利用者の増加

本交付金の活動での遊歩道の整備により、都市近郊に位置し良好なアクセスも後押しして、日帰りコースとして年間1,000人を超える登山・ハイキング利用者が訪れるようになりました。

➤ ひょうご森づくり活動賞受賞(県民総参加の森づくりへの貢献)

歩道や標識類の整備、普及啓発活動による地域内外からの来訪者の誘致、県民が歴史や森林を学びながら安全に利用できる里山整備、災害に強い森づくりへの貢献が認められ、令和4年に「ひょうご森づくり活動賞」を受賞しました。



「ひょうご森づくり活動賞」受賞記念の盾

活動上の課題、その対応策等

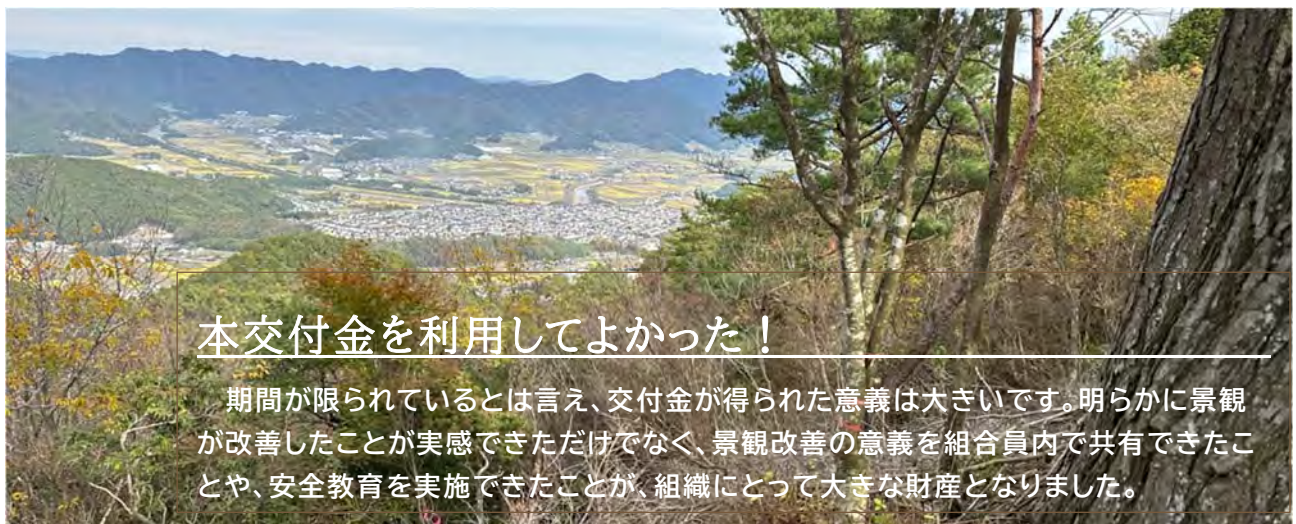
- 高齢化等による組合員の減少で、活動人材の確保が課題となっています。作業の負担軽減、省力化、合理化を図るため、手道具中心の管理から、チェーンソー等の機械作業に移行しました。
- 登山人気が高まる中、トレイルランのコースを利用する登山者とトレイルランナーの双方が気持ちよく利用できるように、管理地内に迂回路を設置することを検討しています。

今後の展開

- 味間新音羽地区(おとわちく)の森林の保全管理を継続し、近隣の都市住民に幅広く森林整備に関わってもらえるよう活動を発展させていきます。
- 市内の薪ストーブユーザー等、木材を日常的に使用する住民に活動参加を呼びかけ、継続的な森林整備につなげます。
- 利用者増に伴い登山道でのすれ違いが困難な場所の拡幅などを適宜実施します。

他の活動組織への一言アドバイス

- 自分たちが抱える様々な悩みを組織内だけの問題とせず、自治体や関係団体等の組織外に相談することで、簡単に解決できることもあります。
- 本交付金の活動開始当初は、モニタリング調査の趣旨・方法などを理解するのに苦労したが、地域協議会の説明で理解することができました。必要に応じて地域協議会を頼ることも大切です。



本交付金を利用してよかった!

期間が限られているとはいえ、交付金が得られた意義は大きいです。明らかに景観が改善したことが実感できただけでなく、景観改善の意義を組合員内で共有できたことや、安全教育を実施できたことが、組織にとって大きな財産となりました。

出張イベントで都市住民に森林の情報を発信

ながきたけかつ ラボ
長崎竹活Labo

設立年:令和2年

構成員:20名

活動地域:長崎県大村市

活動実績(令和4年度):竹林整備(0.3ha)、交付金124千円

連絡先:090-2519-7693

Email:1970kohlartsculptor@gmail.com



活動の概要

大村市荒平町(おおむらしあらひらまち)は、大上戸川(だいじょうごがわ)水系中流域の谷合いの集落で、細い尾根部に豊富な水量をもつ沢が流れています。「水計り」という地名が今も残り、かつては田畑に水を共有する多くの水車が立ち並んでいました。上流部の山田の滝、イチイガシ天然林(県指定天然記念物)等は、風致地区に指定されている一方、これ以外の上流部の田園地帯では、宅地開発や産業誘致が行われてきました。

活動地は、長年放置され、竹の侵入を許してしまった里山林(広葉樹林)で、近接する住宅地への影響が懸念されている森林です。こうした森林の景観改善と多面的機能を回復するために、侵入竹を除去し、除去した竹を利用した竹炭・玩具づくりや健全な里山林の再生、そこでのネイチャーゲーム、安全講習などを行っています。また、都市住民などを対象に出張イベントや森をテーマとした映画の上映会を行うなど、森への関心が薄い人にも森に目を向けてもらう機会を創出しています



除去した竹を利用した
移動式あそび場の一部

▶ 「移動式あそび場」で竹や木に直接ふれ森林に目を向けてもらう

子どもたちに竹や木にふれることを通じた自然体験の機会を提供したいものの、活動地まで来てもらうとなると、移動時間や駐車場所などの条件から、参加者が限られてしまうのが現状です。もっと気軽に多くの子もたちに『あそび』を通して自然とふれあえる場を提供したいと考え、「移動式あそび場」を開設しています。

長崎県内の公共施設や各種イベント等に出向き、竹を使ったイベントの開催を通じてPR活動を実施しています。令和4年3月には長崎歴史文化博物館の敷地内に竹けん玉、竹トンボ、竹筒水鉄砲などの、竹から作った玩具で子どもたちに竹と親しんでもらう「移動式あそび場」を開設し、都市住民に向けたイベントを実施しました(不定期開催)。

活動の成果及び効果(アウトプットとアウトカム)

▶ 関係人口創出・維持タイプの活用で会員増強

関係人口創出・維持タイプを活用し、都市住民に森林に目を向けてもらうイベントの開催を通じて、大村市だけでなく、長崎市や佐世保市からの活動参加者も増加しています。4名からスタートした会員も現在では20名に増え、本交付金活動が会員増強につながっています。

➤ 森林整備の技能を習得

本交付金の活動によって、森林の整備方法や竹の活用なども習得できました。本交付金活動で行った森林整備により、竹林と里山の景観の改善が着実に進み、木漏れ日の入る明るい雑木林・竹林になってきました。



活動上の課題、その対応策等

- 活動人材の確保が課題となっています。構成メンバー以外の外部ボランティアを積極的に受け入れ、他団体との連携を継続的に実施することで対応しています。
- 活動費の確保が課題となっています。関連イベント等の機会を利用した竹材や竹炭の販売による収入で活動費を確保するほか、竹林使用料の徴収(森林保全協力金)や活動支援金の寄附の呼びかけを行っています。



侵入竹の除去で里山林(広葉樹林)が回復した作業地

今後の展開

- 交付金活動が終了した4年目以降も森林ボランティアを継続し、近隣の里山林・竹林整備を行います。
- 多くの人が森林や木・竹とふれあう機会を継続して創出していきます。不定期で開催している「移動式あそび場」を関係主体と連携してより積極的に行います。

他の活動組織への一言アドバイス

- 都市住民に田舎の森をPRしても、実際に足を運ぶまでには数段階あると思います。都会の人にどう田舎の森を感じとってもらうか、来たいと思ってもらうかを、森林整備と切り離して考えてみることも大切です。
- 整備によって森がどう変化していくだけでなく、整備後の森の活用について具体的にイメージし、整備時点でそこを意識した取組を行うことで、新たな活動参加者を呼び込むことにつながります。



本交付金を利用してよかった!

財政面での援助と同じくらい、地域協議会のアドバイスやサポートがありがたかったです。本交付金の活動を通じて、活動の効率化、適切な進め方、安全作業などの森林・竹林の整備だけでなく、整備後の森の活用を見据えた支援を得ることができました。

島の恵みツバキで離島の問題を解決

NPO 法人カメラ五島^{ごとう}

設立年：平成 22 年

構成員：16 名

活動地域：長崎県五島市

活動実績（令和4年度）：里山林保全（11.5ha）、竹林整備（0.1ha）
森林資源利用（6.9ha）、交付金 2,349 千円

連絡先：090-7471-8356

Email: gotoshinpo@lagoon.ocn.ne.jp



活動の概要

五島列島の南西部に位置する 10 の有人島と 53 の無人島からなる五島市は、少子高齢化と人口減少により放置山林が激増し問題になっています。カメラ五島は、こうした放置山林の拡大を防ぐために、長年、森林の保全活動や森林資源を活用した地域活性化に取り組んできました。平成 24 年に、五島市は内閣府の地域活性化総合特別区域の一つとして、長崎県より「椿による五島列島活性化特区」に指定され、ツバキを活

用した地域振興策を積極的に推進することになりました。これにより、カメラ五島にとっても、ツバキ林整備の方向性がより明確になりました。

本交付金の活動では、森林の管理・活用をさらに推進するため、竹林化したスギ、ヒノキや荒廃したツバキ林などにおいて、間伐、除伐、断幹等を行い、その際に生じるツバキ材、竹材等の伐採木を炭生産や加工品の製造につなげるとともに、ツバキの実の採取と販売にも力を入れています。

➤ ヤブツバキの整備と商品化

ツバキ林から搬出する伐採木およびツバキの実の販売で収入を得ています。ツバキの実は、収穫後に数日間乾燥させ、手作業で外皮を剥き、種を取り出し、乾燥させた後、ツバキ油工場などに出荷します。一部地元の観光施設にも卸しています。

➤ 自治体との連携

五島市のツバキ林所有者への管理意向調査で、委託希望のあったツバキ林の整備を行っています。市が仲介役となり、所有者とともに管理方法等について検討しています。



活動の成果及び効果(アウトプットとアウトカム)

➤ 景観改善と安定収入の一石二鳥

ツバキ林をはじめとした森林整備活動により、景観改善が着実に進められ、搬出したツバキ材を使った椿炭、ツバキの実(種)、ツバキ油の販売先が確保でき、一定程度の収入(ツバキの種年間400~600kg、年間売上約80万円)が得られるようになりました。

➤ 地元の森林所有者や不在村所有者からの喜びの声

本交付金を通じた森林整備の経験、得られた知識や技能を活かして、委託希望のあった森林について整備作業の請負をすることで、高齢の地元の森林所有者や不在村所有者から喜ばれています。

➤ 自治体や観光拠点等との連携

ツバキの実を卸している観光施設でツバキ油採取の体験交流イベントを実施しています。市による広報支援や観光体験ツアー等により毎年島外から多くが訪れ、関係人口創出の仕組みが構築できました。



活動上の課題、その対応策等

- 高木化したツバキの木の管理方法が課題となっています。高木化したツバキは、実の採取のために危険な高所作業が必要となります。それを回避するために断幹を行うと、その後5年程度は花や実がつかなくなります。予め高木化しないよう管理し、断幹は一度に行わず、順繰りに実行しています。
- 収穫量の増加や実の採取等の工程の効率化が課題です。品種改良等による収量の拡大やツバキの実から種を取り出す工程の効率化に向けて、情報収集や試行錯誤を重ねています。

今後の展開

- 4年目以降も森林所有者と協働で、地域の人々が楽しめるような森林づくりを行います。
- 観光施設等との連携を継続し島外の人々が地域資源の活用を体験できる機会創出に努めます。
- 窯の修理を行って椿炭(煙が少なく火の粉も飛びにくく人気が高い)づくりを再開します。



ツバキを使った交流イベントの様子

他の活動組織への一言アドバイス

わからないことを団体内だけで考えるのではなく、地域協議会に学習会の開催を依頼したり行政機関に相談することで、より効率的・効果的な成果が期待できます。

本交付金を利用して よかった!

本交付金を活用した活動は、森林整備を実践するための大きな後押しとなりました。また、五島市との連携にも弾みがつき、取組をスムーズに行うことができました。

放置竹林問題を解決し、地域資源の循環を促進

た ら ぎ ま ち ほ う ち ち くりんさいせいきょうぎかい
多良木町放置竹林再生協議会

設立年：令和2年

構成員：5名

活動地域：熊本県多良木町

活動実績（令和4年度）：竹林整備（7.2ha）、交付金 1,764 千円

連絡先：090-1361-7100

Email：yayamal307@gmail.com



活動の概要

熊本県南部に位置する多良木町（たらぎまち）は、町の面積の約8割が山林原野です。数十年前までは、山に竹を生やし資源として利用する人が多くいました。しかし、高齢化、都市部への移住などで、近年管理されなくなった竹林が増えていきます。

こうした放置竹林は、近隣の田畑への侵入により農作物の生産に影響を及ぼすほか、イノシシやシカの住処となるなど有害鳥獣被害の拡大や、根が浅いため地滑りにつながる可能性もあり、地域の深刻な問題となっています。

➤ 竹林整備と未利用資源の多様な活用

放置竹林の課題解決のための竹林整備で出た伐採竹やタケノコは、加工し、地元業者に卸すなどして、当団体の安定的な収入としています。

伐採竹は、割り箸、竹垣材や、竹細工に加工している業者に卸し、タケノコは、メンマに加工・商品化しています。

➤ 多良木メンマの商品開発・ブランド化

令和2年から国産メンマづくりの商品開発の取組を開始し、令和5年に「多良木メンマ」の商品化に成功しました。消費拡大やブランド化に向けデザインや広報にも力を入れ、メディアにも取り上げられるようになりました。売り出すと即完売してしまうほどの人気商品となっています。

整備作業後の竹林

本交付金活動地周辺の地区では、侵入竹が1ha 当たり1万本程度あり、このうち4割は枯竹、折竹です。本交付金活動地では、これらの竹林が国土の保全、快適な環境の形成などの森林の多面的機能を発揮できるように、1ha 当たり4千本程度に間引き整理し、林床に光を入れ、見通しを確保するなどして、有害鳥獣による影響の軽減に取り組むと共に、地域資源の循環を目指したタケノコの生育に適した環境づくりを行っています。



活動の成果及び効果(アウトプットとアウトカム)

➤ 竹林整備が他の地域ブランドの生産拡大にも一役

球磨郡では「球磨栗」のブランド化に力を入れていますが、竹林の侵入が栗の生育に悪影響を及ぼすようになっていました。本交付金による竹林整備が健全な栗の生育につながり、活動地周辺の栗生産の拡大に貢献しています。

➤ 国産タケノコの出荷地として町の知名度が向上

活動を通じた林産物収入としては、タケノコ販売が 60 万円/年、竹材の卸し販売が 15~20 万円/年。竹林整備を通じて安定したタケノコの生産が可能となったことから、純国産の「多良木メンマ」の材料のタケノコが出荷できる地域として、熊本県内での多良木町の知名度が上がってきました。

活動上の課題、その対応策等

- 交付金活動終了後に竹林整備を継続的に行うために、人材育成・確保が課題となっています。現在は、タケノコ・竹材の加工品、竹材卸し等、竹材活用の多様化に応えられる人材の育成と、販売収益のみによる安定雇用に向けた取組を進めています。
- Local Bamboo 株式会社の監修のもと、令和5年に「多良木メンマ」をブランド化しました。メンマの消費拡大に向け、レシピの共同開発を行ない、おにぎりなど親しみやすいアレンジで、メンマと森づくりの可能性を広げました。活動を促進する一環として、オンラインストアのみならず、SNS で積極的に発信することで、放置竹林の地域資源化と未来へつなげる森づくりに取り組んでいます。

今後の展開

- 交付金による活動が終了となる4年目以降も、引き続き森林所有者と協働した森林づくり(竹林整備)を行います。
- 整備した竹林資源の継続的な活用により地域振興に貢献していきます。多良木メンマは、令和5年4月、町内の「多良木えびす物産館」、人吉市内の観光複合施設及びオンラインで販売開始。同年夏には多良木町内に多良木メンマのおにぎり店が開店し、今後は飲食店や旅館などへの卸販売に力を入れる予定です。

他の活動組織への一言アドバイス

- 竹林等の森林整備には、関係機関や地権者とのコミュニケーションが重要で、これがなければ何も始まらないと思います。活動をスムーズに進めるためには、自治体担当者による所有者の探索・調整等の協力が大きな助けとなります。
- 林産物の販売促進には、商品コンセプトを明確にすることが効果的です。売りは何か、どう使うのか等、商品価値を際立たせることで、林産物の付加価値も高まると思います。



多良木メンマ柚子味噌味(左)と梅味(右)とそのアレンジ料理

本交付金を利用してよかった!

本交付金が、竹林整備を実践するきっかけとなりました。年間を通じた現場での竹林整備を実践することで、資源利用を見据えた持続的・効率的な管理の成果を実感でき、その結果、地権者からも感謝の言葉をもらうことができました。

令和5年度 森林・山村多面的機能発揮対策交付金
活動事例集

発行 林野庁 令和6年2月

作成 公益財団法人 日本生態系協会